

高病原性鳥インフルエンザ特別防疫対策期間が始まりました！



熊本県では、11月から翌年4月までを「高病原性鳥インフルエンザ特別防疫対策期間」と定め、本病ウイルスの養鶏農場への侵入防止と疾病発生時のまん延防止対策を強化しています。

家さん飼養者や関係者の皆様におかれましては、長靴の消毒や防鳥ネットの補修など、飼養衛生管理基準を遵守していただくとともに、異状が認められた場合には、速やかに家畜保健衛生所までご連絡いただくようお願いします。

また、当所では防疫対策のため、畜産関係車両についてはタイヤ消毒を実施しておりますので、来所の際には、敷地入口の左前方にある消毒マット（上右図参照）を通過して下さるようお願いします。

生白血病（EBL）の発生・拡大防止のために気を付けることは

全国的にEBL発生報告数が増加し、また、当所へのEBL検査依頼も年々増加しています。そこで、牛飼養者、畜産関係者の皆様へEBLについて改めてご紹介いたします。

➤ 牛白血病（地方病性牛白血病）とは

- 牛白血病ウイルスの感染により起こります。感染しても**多くは無症状**ですが、数ヶ月～数年後に発症する場合があります。**発症するのは、感染牛の数%(2~5%)**、好発年齢は3歳以上(4~8歳)と言われていたますが、近年3歳未満での発症も少なくありません。
- **有効なワクチンや、発症牛に対する治療法はありません**。牛の届出伝染病であり、全国での発症牛の届出数は平成10年の99頭から増加し、平成29年には3,453頭に発生しております。
- なお、**人に感染することはありません**。と畜場で発見された場合は全廃棄となるため、発症牛の牛肉が市場に出回ることはありません。

➤ 症状

発症すると、削瘦、元気消失、食欲不振、眼球突出、体表リンパ節の腫脹(図1)等がみられ、骨盤腔内や心臓、胃、子宮等にも腫瘍が形成されます。

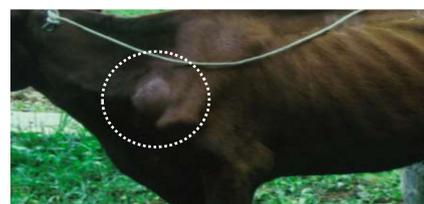


図1 体表リンパ節の腫脹

(裏面に続く)

➤ 主な感染経路

○血液による感染(感染原因の90%を占める)

感染牛の血液との接触で最も高確率に感染します。アブやサシバエ等の吸血、注射針や直腸検査用手袋の使い回し、耳標・鼻環の装着、除角、去勢、削蹄等の出血を伴う作業に使用する器具の不十分な洗浄や消毒などの人為的な要因または、鼻汁や傷口を介した接触によっても感染します。

○親子間の感染(感染原因の10%を占める)

母牛が感染牛の場合、子宮内や産道で子牛が感染する場合があります。また、出生後は感染牛の初乳摂取により感染する可能性があります。

➤ 感染を抑えるためには

以下の事項に注意して飼養管理を行いましょう！

吸血昆虫

- 牛舎にネット（網目は2mm以下、高さは2m）を設置
- 耳標装着型駆除剤・忌避剤の使用
- アブトラップの活用

除角・削蹄

耳標・鼻環取付

- 確実な止血
- 使用した器具の洗浄と消毒
- 感染牛の実施は最後に

直腸検査

- 直腸検査は1頭ごとに手袋を交換
- エコープローブもカバーで覆い交換
- 感染牛の実施は最後に

分娩

- 分娩房を設置し他の牛と隔離
- 分娩後は牛房の洗浄・消毒
- 感染していない牛から後継牛を生産

初乳・早期母子分離

- 感染していない牛の初乳か初乳製材を給与
- 感染牛の初乳は60℃30分間の加温か、凍結処理を行う
- 感染母牛との早期の母子分離を行い、子牛への感染を予防

牛の配置

- 感染牛群と非感染牛群を離して（4m以上）飼育（牛群の間に空房やネットを設置）

近隣諸国における悪性伝染病発生情報

病名	発生地（国）	畜種	発生年月日
アフリカ豚コレラ	中国(2件)	豚	令和元年(2019年)10月1日 ～令和元年(2019年)10月30日
	韓国(5件)	豚	令和元年(2019年)10月2日 ～令和元年(2019年)10月9日

令和元年(2019年)11月1日時点

編集後記 (H.Y)

球磨地域に今年度から住み始めた私ですが、朝と夜がもうすっかり寒く、起きるのがつらくなってきました。かといって、昼は半袖で良いくらい暑く、体調を崩さないか心配です。皆様も体調を崩さないよう気を付けられてください。